

はじめまして

## 愛と平和、環境をテーマに歌うバンド

# The Whiskey Blossom

ザ・ウイスキー  
ブロッサム



### ザ・ウイスキーブロッサム・菜の花プロジェクト代表 強矢義和 (スネヤヨシカズ)

#### バンド活動のはじまりは 1980 年代

1980 年代初めからの 7 年間位だったか、ほとんどの休日をバンド活動に費やす生活があった。我々が目指した音楽は、ブルークラス、カントリーというジャンルの音楽で、一般的には少数派だったけど、聴いてもらえば誰でもが元気に明るくなるような感じだ。これが好きで好きでたまらないやつらが集まってバンドをこさえて練習してライブをやって、という日々だった。最初に組んだのが高経大の学生の I 君、バンジョーの上手な奴だった。4 人で練習を重ね、当時ヤマハのポップコンというコンテストに応募してカセットテープに録音したものを送ったら、関東甲信越大会に出てくれということになって、おい、これはプロの道がひらけたんじゃないか？なんて夢見たもんだ。このコンテストには結局直前になって、メンバーの誰かが高熱を発する風邪をひいて、涙を飲み、断腸の思いで出場を辞退。ああ、この時のポップコンの最優秀賞が例のチャゲアスだったな。この後メンバーの経大生は就職活動のために抜けて、ついでにベースも三里塚に行くんだなどと言って抜けて、バンドはまた一からのスタートをするために、メンバーを集めてはぶっ壊し、そんなことばかりやっているうちに、今度は私自身が家庭持ちになり子育ての忙しい時代を迎え、もういいかっ

て感じで、まあバンドも楽しかったけど思い出のオルゴール箱に仕舞っちゃいましょう的な感じで 25 年が過ぎたわけだ。

#### 菜の花プロジェクトと出会って

子育ても子どもたちが中学、高校という頃になって「菜の花プロジェクト」というものに出会った。テレビを見ていたら、滋賀県で使い古しの天ぷら油を家庭から回収して、ディーゼル燃料として再生処理して、町のバスやなんかを走らせているというのだ。たまげた、すごい。農家の高齢化や儲からない農業で担い手が無く、耕作放棄される畑、遊休農地が甘楽町にも年々増え続けている。この畑で菜の花を育て、菜種を収穫して油を搾って、使った油は捨てずに回収して、バイオディーゼル燃料として使う。何と魅力的な活動ではないか。そういう想いが高まり、人脈だけは豊富な私、おい！こういうのをやるから来てね！と仲間に持ちかけ 16 人位だったと思うが、公民館の部屋で「菜の花プロジェクト in 甘楽」という名称で会をスタートさせた。最初の年は 0.8 ヘクタール、メンバーの持っている 5 ヲ所の畑を使って華々しく種まきイベントをやった。約 10 年前のことである。

私を含めて菜の花メンバーはほとんどが農業などやったことがない、いいとこ家庭菜園くらいなもので、手探りで菜の花の種を蒔いて、雑

草を抜いて畑を手入れし、やっとの思いで最初の春、満開の菜の花畑の前でメンバープラス知人ご一行でお花見会をやった。楽しい会にするためには野外で音楽が聴きたいということで、地域のコーラスグループや吹奏楽のグループの皆さん方に来てもらって演奏をお願いした。青空の下で聴く音楽は爽やかで魅力いっぱいだ。

最初はたった5カ所の菜の花畑だった菜の花プロジェクトも3年4年と続けていく中で、うちの畑も使ってくれないかという農家さんが何軒も出てきて今年は20カ所になり、次の年はまた増えて30カ所になりというように、あれよという間に、2014年現在は40カ所以上の畑に展開するようになってしまった。つくづく思ったのは、これから日本の農業と畑はどうなっていくの？ということだ。就労しているのは70代の老人、跡取りはいない、畑は余る、人に貸していた畑は返される。おじいさんが亡くなればもう畑は誰もやり手がいない。えらいことだよまったく！



(菜の花の種まきイベントに参加する人たち)

## 音楽の虫が息を吹き返し

そんな形で何年か続けて行く中で、お花見会の方も規模が大きくなり菜の花まつりと名称を改め甘楽町の公園に一般の人も含めて300人、500人と集まってくれるようになった。

4年程前の菜の花まつりの時に毎年出演してくれていたコーラスグループが事情があって参加できないことになった。アカペラのコーラスグループで大変人気のあった皆さんだ。抜けた穴をどう埋めようかと考えたときある考えがよぎった。「自分でやればいい」と。菜の花まつり

の音楽ステージを毎年見ながら、自分でも演奏したいとかつての音楽の虫が息を吹き返してしまったのだ。思い切って元のバンドメンバーのギター弾きに連絡。「菜の花まつりのステージで二人で演奏しませんか？」すると「いいですね。ベースもいますよ」の返事。ギター、フラットマンドリン、ベースの3人で早速練習を開始、何とか昔の勘を取り戻した。これでバンジョー弾きがいればバッチリなんだけどと思っていたら、インターネットを通じて素晴らしいバンジョー弾きが県内にいることを発見。バンジョーは元よりギターでも何でも楽器ならこなしてしまうらしい。それが今の私達のバンドの柱となってくれている松本英樹君39歳だ。彼は視覚に障害を持ちながら音楽に、仕事に、福祉ボランティアにと前向きに取り組んでいてその姿にいつも励まされる。

## 自主コンサートを開催したら

昨年は高崎のコアホールで自主コンサートを開催し200人くらいの方が来てくれた。それがきっかけで県内のある小学校の校長先生が「松本君にぜひ学校で演奏と話をしたい」ということになった。テーマは「ハンディーがありながらがんばっている人」。まさにピッタリだ。そこで松本君と私で小学校に出かけて行って演奏してきた。松本君は目が不自由だけどがんばってますというような話をするかと思ったら終始ダジャレを連発。♪咲いた咲いたチューリップの花がの時に私に新聞紙をベリッと破かせて、「裂いたじゃないでしょ」てな具合だ。何ともはやの松本君であった。

## 平和であってこそ

音楽のある生活というのは理屈無しでいいものだ。これも平和であってこそと思ひ、バンドは県内の平和や反核に関する集いに参加しては演奏させてもらっている。先日は高崎平和コンサートに出演させてもらった。これからも4人、気楽に真剣に音楽と菜の花に向かい合っていきたいと思っている。